

2015年4月入職

もりかわなつき
森川なつ貴



発信源となって、ブランドを背負う

大きな喜びがあるから、小さなことではめげない

祖母や叔母が看護師をしていたので、看護師という仕事は幼い頃から身近にありました。母親が入退院を繰り返していたこともあり、お見舞いに行ったときに担当の看護師さんが優しくしてくださったこともよく覚えています。自分も看護師になろうと決めたのは、高校3年のとき。他の職業に目移りした時期もありましたが、私はこの道で生きていこうと覚悟を決めました。

看護師になってからは辞めたいと何度も思いましたが、人と深く関わるこの仕事は他の何物にも代えられないですし、「あなたが担当でよかった」と言っていたときの喜びはとても大きなものです。自分の仕事の先には大きな喜びが待っているので、日々の小さなことではいちいちめげてられません。患者さまは好きで入院しているわけではなく、病気を治したい、より良い生活を送りたいという一心で治療に向き合われています。その気持ちに寄り添い、お一人ひとりが「こうありたい」と思い描く理想に向けたサポートをしながら、一つでも多くの笑顔を生み出していきたいと思っています。



施設全体の質を底上げしたい



思いやりエキスパートという制度には、大きな意義があると思っています。施設に1人いるだけで、まわりのスタッフにとっての手本となることができ、全体の質が底上げされるからです。研修を受けている最中、私自身に改善すべき点があると感じたのはもちろん、施設全体を改めて見直したときにも目に付くところが色々ありました。学校で習ったことや入職後の研修で受けたことは、職場の環境に慣れていくにつれて段々と忘れがちになっていきます。

身だしなみもそうですし、敬語一つに関してもそうです。細かいところまで気を配ることで、周囲が受ける印象も変わってくると感じました。

職場には多くのスタッフがありますが、気がついたところは積極的にアドバイスしていきたいと思っています。「これができていません」ではなく、「こうしたらもっと良くなると思います」というように、ポジティブな言葉で施設全体の質を底上げすることが私の目標です。思いやりエキスパートに選ばれたからには、施設の顔として自分を向上させるだけでなく、発信源となってブランドを背負うくらいの決意を持っています。

笑顔を忘れず

常に患者さまの一番の理解者であれるよう努めます。

森川なつ貴